



おうちで田んぼ



たねからお米をそだててみましょう！

こんにちは。小さなお米のたねでイネを育てましょう。イネはお天気（晴れや雨）や土、まわりの生き物たちとつながりながらかわいらしく、そして力強く育っていきます。昔は、お米づくりに88の手間がかかるといわれていました。だからかもしれません。「米」という漢字は「八十八」の文字の組み合わせなのです！

本格的な田んぼでは、たくさん手数と時間がかかりますが、「おうちで田んぼ」ではコンパクトにだれでもできるようにしてみました。

たのしみながら家族で「お米づくり」に挑戦してくださいね♪



事務局“こめたいちょう”の
神田浩行も応援します！

たねからお米をそだてるながれ

- 1 たねを眠りから覚ましましょう ～浸種・発芽～
- 2 苗をそだてましょう ～育苗～
- 3 お引っ越ししましょう ～田植え～
- 4 水をやりましょう ～水やり／防鳥～
- 5 収穫しましょう ～いねかり～
- 6 乾かしましょう ～天日干し～
- 7 もみをとりましょう ～脱穀～
- 8 春をむかえる準備をしましょう ～種取り～
- 9 皮むきしましょう ～もみすり～
- 10 いよいよたべましょう ～玄米～
- 11 わらで正月をむかえましょう ～わら細工～



今回は「1」と「2」をやります

1 たねを眠りから覚ましましょう ～浸種・発芽～

“ねぼすけ種モミ”

お米の種モミは生きています。そのままだと芽が出ないのは、いま眠っているからです。苗をつくるには、まず種モミをおこしてあげなければなりません。

お水になかに入れて、ゴクゴクとお水をのんで目を覚まして芽が出ます。種モミはねぼすけなのですぐには目を覚ましません。3日～4日水につけてあげないとイケません。

※実際には「水温×日数＝100℃」になると発芽するといわれます。水温により日数は異なります。

□ 準備

- ・種もみ（今回お送りしたもの）



種もみ

- ・ミニ水槽またはプラコップやプリンカップ

透明の容器ならどのようなものでもかまいません。水を入れても倒れにくいものにしましょう。

- ・水

種もみをいれる容器の半分くらいの深さまで水を入れます。

1日汲み置きした水が一番いいですが、間にあわなければ水道水をそのまま使っても大丈夫です。

□ 育てかた

- 1 容器（ミニ水槽やプラコップまたはプリンカップなど）に水をいれます（底から5cm程度まで）
- 2 容器に種もみを入れます
- 3 浮かんだ種もみを取り除きます
取り除いたもみはすててください
- 4 日当りの良い場所において観察します
- 5 水を毎日交換します
- 6 水の表面に泡が浮かんできます（呼吸中）
- 7 3～5日で小さく白く発芽します



種もみを
水にいれます



浮かんだ
種もみを
取り除きます



例) ミニ水槽(左)とプラカップ(右)

2 苗をそだてましょう ～育苗～

“伸びるひげはなんでしょう”

- 1 白いひげのようなものが出てきたら、毎日観察してみましよう。でてきたのは1本でしょうか？
- 2 お水は毎日かえてあげてください。
- 3 苗が5cmくらいまで成長したら、いよいよ田植えです。

～次回、田植えにつづく！～

※バケツ稲か田んぼへ田植え、もしくはその両方も可能です。お楽しみに！



苗の生長 プリンカップ(左)とミニ水槽(右)